

# 宮城県の景況判断

## 総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している。

## 概況

生産は全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している。需要面の動きをみると、公共投資は震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している。住宅投資は、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。雇用情勢は総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている。

## 今月のポイント

今年の1月は年始の休みが長かったこと、前年に比べて野菜やガソリン価格が落ち着いていたこと、天候が比較的穏やかであったことなどが個人消費に追い風となったほか、仙台圏以外でも活発な建設投資がみられた。一方、米中貿易摩擦や中国経済の減速などの海外動向が県内の主力業種の生産を下押ししており、関連する労働需要（製造業の新規求人）が減少するなど一部で影響がみられている。

## (参考) 県内景況判断の推移

|        | 2019年1月  | 2月   | 3月   |
|--------|--|--|--|
| 総括判断   | 震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している<br>(据え置き) | 震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している<br>(据え置き) | 震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している<br>(据え置き) |
| 生産     | 全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している                                  | 全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している                                  | 全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している                                  |
| 個人消費   | 概ね横ばい圏内の動きとなっている   | 概ね横ばい圏内の動きとなっている   | 概ね横ばい圏内の動きとなっている   |
| 住宅投資   | 建替需要の反動などにより基調としては減少している                                       | 建替需要の反動などにより基調としては減少している                                       | 建替需要の反動などにより基調としては減少している                                       |
| 公共投資   | 震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している                             | 震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している                             | 震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している                             |
| 雇用情勢   | 総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている                              | 総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている                              | 総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている                              |
| 企業の景況感 | (2018年4~6月)<br>一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては持ち直しの動きとなっている            | (7~9月)<br>持ち直しの動きが鈍化している                                       | (10~12月)<br>持ち直しの動きが鈍化している                                     |

注) 下線は前月(回)からの変更箇所